

# 千里の風

No.3

2013年度歴史教育者協議会  
全国大会・大阪  
大会速報「千里の風」  
編集・発行：現地実行委員会

## 兵庫歴教協の交流会

集合時間：2013年8月2日（金）17：15  
集合場所：全体会会場（千里ホール）出口  
交流会の場所は、相談の上決定します。  
連絡先：（岩本賢治）

## 大阪歴教協会の方へ

大阪歴史教育者協議会会員の方は、書籍売場で、お名前を書いて大阪の歴史教育第46号を受け取ってください。

## 歩いた歩いたコリアタウン



環状線の事故のためにスタートはどのようなことかと心配しましたが、あつーいなか、歩くわ歩くわ。そう言えば大会の現地見学は歩く！地域に根ざす歴教協大会の幕開けだなあとしみじみ感じます。韓国と日本の関係は古代からなんだとを感じるコースでした。コリアンタウンは、これからの日韓関係を暗示している感じです。これからの日韓関係がうまく行きますように願っています。これからの大会の成功を祈ります。（兵庫）

▼ コリアタウンというエキゾチックな雰囲気に興味を引かれて参加しました。集合場所の桃谷駅を、環状線のトラブルにもめげず、三〇分ほどの遅れで出発しました。最初の堂ヶ芝廃寺（豊川閣観音寺）は、百済滅亡後にこの地に移住してきた王族の住んでいた地だという。七世紀にすでに朝鮮半島との交流があったとわかった。そこから桃谷駅を歩いて生野コリアタウン方面に向かうと、道路が下っている。かつては河内潟だったというが、この潟湖が海上航路となっていたことが実感としてわかった。こうしたことは、歩いてみなければわからないことで、大坂の由来も実感できる。平野川に架かっていた「鶴の橋」は五世紀、「仁徳天皇」の時代に渡来人が架けたという。御幸森神社の「難波津の歌」も



渡来人の王仁（わに）が詠んだといわれる。この歌碑は今では日韓交流の観光スポットのようで、他の観光団体も見学していた。最後はいよいよコリアタウンである。なぜ猪飼野にコリアタウンが出来たかはわからないが、大正時代に大阪—濟州島との航路が開かれて、濟州島からの移住が多くなったという。濟州島のシンボルのトルハルバンも置かれていた。暑さで倒れそうだったが、コリアタウンの店に入って休憩したら、気持ちはコリアンになった。店の雰囲気だけでなく匂いや人の話、出されるものはコリアを満喫させてくれた。在日コリアンとの関わりは近代の遺産だと思っていたが、実は古代からの関わりがあることがわかり有意義なFWでした。案内して下さいの小野さんはじめ、大阪の皆さんに感謝します。

~~~~~

## たっぷり大阪城プレコース A に参加して～

近代初めの大阪城には天守閣はなく、天守には市民のための貯水池があり、その周りの場内には師団司令部や各部隊の施設、陸軍病院、砲兵工廠がびっしり並んでいた…。そんな近代の大阪城のイメージをしっかりと作ることができた見学会でした。



教えてもらわなければ気づかないものがたくさんありました。第四師団司令部庁舎の脇には、西南戦争の時に造られた大阪臨時軍事病院の石碑。ここで約930名が亡くなっています。大阪城ホールの横には大阪砲兵工廠の荷揚げ用水門がありました。城の内堀に顔を出している地下壕の入り口も印象的でした。大阪城の下には地下壕が掘られ、その崩落によって天守近くでは今も陥没が起こるそうです。

空襲の傷跡も十カ所近く見ました。1960年代の修復方法も詳しく教わったので、天守閣の石垣はとりあえずモルタルで固め、その後で石の板を張ったり、隙間に石材を詰めたりしてあるのがよくわかりました。また、空襲の廃材を集めて建てた青屋門には、あちこちに焼け焦げた部材があるのが衝撃的でした。

今の天守閣は、昭和天皇の即位を利用して市長を中心に市民の寄付金で建て、その時に軍用地の一部を公園として市民に開放させた話はすばらしいです。その一方で、軍との交換条件で、市民の寄付金の53%を使って師団司令部を新築したこと、開放された公園に一部市民によって「教育勅語40年」を祝う記念碑が建てられたことは、今につながる反動的な動きも感じます。同僚や子どもたちにも教えたいことがたくさんできました。小松さん、大阪歴教協の皆さん、どうもありがとうございました。（三重）